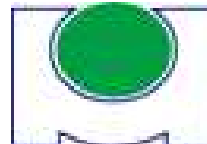


校長室から

校長室だより 第7号
令和3(2021)年12月24日発行
文責 宮城県宮城野高等学校
校長 佐藤 誠



前号発行から随分と日が過ぎ年末となってしまいました。まずは最近の様子からお知らせしていきたいと思います。目標にしていた「コロナの中でも教育の歩みを止めない」を実践することができました。

◇＜令和3年度 研修旅行・遠足を実施しました＞

○2年次美術科「日本美術研修旅行」12月19日(日)～21日(火)

＜京都市内：東寺・伏見稲荷大社・金閣寺・天竜寺・嵐山・二条城・京都水族館・清水寺・三十三間堂＞

○2年次普通科・総合学科「宿泊研修旅行」12月19日(日)～21日(火)

＜東北地方北方面：秋田ふるさと村・なまはげ館or中尊寺・盛岡手づくり村・小岩井農場、安比スキー体験or盛岡市内・盛岡手づくり村・小岩井農場、浅虫温泉、弘前大学・弘前ねぶた村or浅虫水族館・三内丸山遺跡＞

＜東北地方南方面：スパリゾートハワイアンズ・あぶくま洞、アクアマリン福島or植葉遠隔技術開発センター(工場見学)、Jビレッジ・大内宿・喜多方＞

○1年次美術科「宿泊研修旅行」12月21日(火)～22日(水)

＜十和田湖・奥入瀬溪流・十和田市現代美術館・ワラッセ・青森県立美術館＞

○1年次普通科・総合学科「HR企画遠足」12月21日(火)

12HR・14HR：福島県福島市方面(ラウンドワン福島)

13HR：山形県尾花沢市方面(サンドブラスト体験工房・銀山温泉)

15HR：福島県会津磐梯方面(大内宿・磐梯熱海アイスアリーナスケート体験)

16HR：山形県鶴岡市方面(鶴岡公園・加茂水族館)

17HR：岩手県盛岡市方面(ラウンドワンスタジアム盛岡)

年間計画で10月半ばに予定していた1・2年次の研修旅行とHR遠足を、コロナの状況から日程を変更し、さらに内容も修正変更して、何とか先日それぞれ無事に実施することができました。

ただ残念ながら、もともと1年次と同じ日に実施を予定していた3年次のHR遠足は、1年次と同様に日程を延期して実施するには3年次の進路準備日程との調整が難しいことから、苦渋の決断で今年度も中止としました。3年次の生徒の皆さんにとっては、昨年度の各種行事が軒並み中止となり、参加や体験できない1年間を過ごしてきたことからして、実施・参加したかった思いが強かったものと思いますが、これも致し方ない判断だと考えています。3年次の生徒の皆さんに、中止とした遠足に代わるものを提供することはなかなか難しいですが、卒業式を始めとした3年次向けの行事については、できれば例年のやり方に近い内容で実施したいと考えています。卒業式ではぜひ校歌も歌って欲しいですね。

◇美術科3年次卒業制作展覧会(卒展)：テーマ「回転寿司」開催！

期間：11月9日(火)～14日(日) 会場：宮城野区文化センター

(同時開催：11月13日(土) 第3回中学生向け学校説明会)

美術科恒例の3年次卒業制作展(卒展)が、今年度は「回転寿司」をテーマに、11月9日(火)から14日(日)まで、宮城野区文化センターを会場に開催されました。宮城野区文化センターを会場とした開催は、既に数年連続であり、文化センターの館長様を始め職員の皆様にもご理解いただき、展示スペースの確保にも多大なるご協力をいただき、1Fロビー・吹き抜けスペース・階段・2F展示室と廊下・3F展示室と廊下と今までにない広いスペースを利用して展示させていただくことができました。

さらに11月13日(土)には、同じ宮城野区文化センターを会場に中学3年生・保護者向けの第3回学校説明会を午前に開催し、約100名の方に参加いただくとともに、美術科卒展もあわせて観覧いただくことができました。また、午後には、京都芸術大学から椿昇教授をお招きして『高校生に伝えたい「芸術とお金」のこと』と題した講演会、卒展作品講評会・パネルディスカッションを開催し、美術科生徒が参加しました。今年度の卒展は、例年を上回る来場者を迎えて、大成功に終わることができました。終了後は、本日まで、卒展作品の校内ギャラリー展示を行っています。



◇勉強は気合いを入れても結果が伴うとは限らない、ではどうすれば？

○脳科学的知見を活用しよう。「理解(わかること)」と「記憶(覚えること)」は別の物

生徒の皆さんは、日々勉強に勤(いそ)しんでいると思いますが、そもそも「学習」活動の中で、「理解する・わかる」と「記憶する・覚える」ことは異なる活動であることを知っているでしょうか。

先日、各HR・授業ごとに実施した「授業評価」の中で、生徒の皆さんが自身の授業への取組を振り返った「自己評価」のコメントにもたくさん見られましたが、「わかったつもりでいたが、しっかり覚えていなかった」などは、まさに「理解」と「記憶」が別物であることを実感したものと言えます。

では「理解」と「記憶」のどちらが大事なのか、答えは皆さんご想像のとおり。どちらも大事となります。また、どちらを先にすべきなのか。これは一概には言えないことで、その内容によります。逆に言えば、内容により学習にふさわしいやり方がある、ということにもなります。

それぞれの特徴、利点と課題はこんなふうに言われています。

○「記憶（特に単純な暗記）」

- メリット：・同じ内容がある場合には素早く答えを導くことができる
・必要とする公式等をあらためて導き出す必要がなくなる
・苦手科目などに取り組む時はモチベーションをキープしやすい

- デメリット：・理解が不十分なままになりやすい
・少しパターンが変わると途端に答えを導くことができなくなってしまう
・頭を使って理解するクセが身につかなくなる

○「理解」

- メリット：・初見の問題に対しても対応できる
・つながりで覚えるので記憶から抜け落ちにくい

- デメリット：・苦手意識があると理解に時間がかかる

○理解した「短期記憶」を「長期記憶」に変換するには、「暗記」するための作業が重要

もう一つ有名な脳科学的知見に「エビングハウスの忘却曲線」があります。これは、ドイツの心理学者ヘルマン・エビングハウス(1850～1905)が行った実験データを表すグラフを指します。実験によれば、節約率（一度覚えたことを覚え直すのに必要な力）は、「20分後は58%、1時間後は44%、9時間後は35%、1日後は34%、2日後は27%、6日後は25%、1ヶ月後は21%」でした。つまり、一度覚えた（と思った）ことも、1日後には1／3しか覚えていない、ということ意味します。この「覚えた（と思った）」状態は、「わかった（と思った）」瞬間とほぼ同じものと言えます。

このように、時間とともにだんだん忘れ去るような、一度覚えた内容を「短期記憶」と呼びます。これに対して、たとえば自分の名前や自宅の住所、電話番号など、いつでも必要なときに記憶から引き出せるものもあります。これを「長期記憶」と呼びます。また、うれしかった思い出、反対にいやな記憶、なども、忘れることなくフッと記憶が蘇ってくることがありますよね。どちらも、繰り返し思い出すごとで記憶が強化され、「長期記憶」になっているためです。

ここから、必要なことが見えてきます。「理解した・わかった」だけで終わってしまえば、その内容は翌日には1／3が忘れ去られ、その後に使おうとしても十分に活用することができなくなります。つまり、忘れ去る前に再度記憶を補強するための作業（＝もう一度理解する）を入れることで、記憶を強化することが必要なのです。それを、一般的には「復習」と言います。その補強のタイミングを、翌日とするか、2日後とするか、は考え方によります。一般的には、翌日、そして1週間後、1ヶ月後と提示している例が多いのではないかと思います。さらに、自分の名前や住所など、日々使う回数が多いものは忘れません。つまり、記憶の強化には「繰り返し」に効果があるということです。かけ算九九を唱えたり、漢字の書き取りをノートいっぱい書いたり、理由は繰り返しの効果を狙ってのことです。忘れてくなければ、頭の中に思い返すこと（もう一度見聞きする・記憶を呼び起こす）を繰り返しましょう。

最後はおまけで、私は世界史が専門で授業を担当してきましたが、年号や地名・人名など、単独で記憶するにはなかなか難しいものもあります。その場合によく使うのは、「語呂合わせ」で関連する事項をセットにしてかつ意味内容が通るようにして覚える、というやり方です。また、歌の節に合わせて事項を並べて覚える、などというやり方もあります。自分がよく使っていたのは、「もしもしカメよカメさんよ」の節に、中国歴代王朝名を合わせて覚える方法です。「殷・周・秦・漢・三国・晋・南・北・隋・唐・五代・宋・南宋・元・明・清・中華、中華人民共和国」、どうでしょう、歌えますか。

同じ勉強をするのでも、ぜひ効果が上がるようなやり方の工夫も、研究してみてください。

学校花木散歩 その7「ムラサキシキブ」 ～小さい実の方です～

昇降口前のタブノキのあるサークルに丸い鉢があって、その中の校舎に近い方に植えてあるのが「ムラサキシキブ」です。秋に紫色の3ミリほどの小さな実がなり、その色の美しさから紫式部にたとえて名付けられたそうです。寒くなりましたが、今も少し色があせてきましたが実がついています。植物名を記した銘板があるので、開校後の早い時期に植えられたものと思います。右隣の鉢には銘板だけが残っています。同じ鉢には、ブルーベリーに似た別の実もなっていますが、そちらではなく小さい実のある細い枝の方ですので、覚えておいてくださいね。